

2022/6/5 開催報告 | みなみあそ村 移住定住交流会・震災遺構見学会

まずは、知ることから。一步踏み込んで、移住・定住を見つめなおすきっかけに。



主催：地域おこし協力隊

移住定住促進プロジェクト（中西美由紀（右）・家入明日美）×黒川区創造的復興プロジェクト（市村孝広（左））

取材・文・撮影：家入明日美

■南阿蘇村震災伝承館 轍

開館：2022年4月2日～12月24日の土曜日 時間：午前10時～午後4時

TEL0967-67-2230 南阿蘇村政策企画課



①段ボールで作る簡易ベッドは、思いのほか強じん ②壁に走る鋭い亀裂の生々しさ ③、④東海大学学生寮の元寮母の方の手作り弁当で昼食。おやつには、災害時用の羊羹。「避難所で食べた羊羹が人生で一番おいしかった」と話される地域の方もいるそうです ⑤参加者全員、笑顔で。ご参加ありがとうございました。

4月16日 曜 森 日

あの日、南阿蘇村で起きたこと。地域の人たちにとっては筆舌に尽くしがたい記憶。けれど、震災後に村へ移住した人や、これから移住したいと考えている人にとっては、知りたいと思っただけでも、触れるにはためられる記録でしょう。

まずは震災の記録を事実として辿り、地域の人々や、関わってくださった多くの人たちの思いにほんの少しでも触れることで、村での暮らしや自然との向き合い方を見つめなおすきっかけになれば。この交流会は、そんな趣旨の元に地域おこし協力隊が企画したもの。村内でも特に被害が大きかった黒川地区に整備された、南阿蘇村震災伝承館轍（わだち）にて、震災ガイドを担う市村孝広さんの話に耳を傾けました。

プロジェクトマップで解説される、震災メ

カニズム。地質的要因がもたらした土砂災害。震災によって初めて存在が認識された活断層。阿蘇大橋の崩落を目の当たりにされた方や、倒壊した自宅から必死の思いで母を助け出した方のエピソード。東海大学生たちが中心となって灯した、復興への希望のあかり…。

自身も東海大学出身である市村さんの語る言葉の一つひとつは、聞き手の心にすっと吸い込まれていくかのよう。ユーモアを交えた軽妙なトークに、真剣なあまりに強張っていた参加者の皆さんにも、やわらかな笑顔が垣間見えました。

知りたいと思うこと。それは、相手と真剣に関わるための最初の一步。地域を知り、自らの生き方を模索することの大切さを、学んだ時間となりました。



崩落によってひしゃげた、阿蘇大橋の看板。最近発見され、震災伝承館に展示されることになったのだそう。看板一枚からも、被害の大きさが見て取れます。



高野台団地で被災した車両と、崩落した阿蘇大橋の一部が窓の外に。窓を隔てた先には、あの日の時間がそのまま横たわっているように感じられました。



村内の地区ごとの被災の記憶を辿ります。村内の地理もわかりやすく、参加者はそれぞれの地区の上に立ってパネルを読み込んでいました。



黒川地区にもともとあった廃校、旧長陽西部小学校が、南阿蘇村震災伝承館として整備されています。施設内は6つのゾーンに分かれており、段階を追って震災の状況や人々の交流について学べます。